

平成22年度全国高等学校総合体育大会【美ら島沖縄総体2010】
(第78回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成22年8月17日(第1日)

会場: プール

ゲームNo

6

帽子の色	白	2回戦	青	帽子の色
明治大学附属中野高等学校		0 - 1	学法津田学園高等学校	
		0 - 3		
		0 - 1		
4		4 - 1	6	
		EX.		
		-		
天候: 晴れ		P.T.	審判1: 槇橋 邦広	
		-	審判2: 井上 嘉隆	
戦評				

白:明大中野は、過去インターハイ9回優勝を誇り、関東2位で今大会出場。青:津田学園は、5年連続出場、東海予選を1位通過した、機動力を誇るチーム。ともにジュニアからの強化をしている両チーム、個人技、チームプレーともに楽しみな試合。

1P 明大中野の攻撃からスタート。お互いに相手の出方を探り合う第1ピリオド。青:津田学園は相手センタープレーヤーを警戒して、狭くディフェンスのセットをはる。白:明大中野はマンツーマンディフェンスで対応。お互いに決定的な攻め手を作り出せないまま、長いラリーが続く。どちらも単調なミドルシュートを打つしかなく得点が入らない。ピリオド中盤、津田学園にチャンス、キャプテン泉と増田が2線速攻。しかし判断ミスでシュートまでたどり着けなかった。残り1分を切ったところでまた津田学園にチャンス、左サイドから今井のカットインで退水を誘発、セットオフから今井がゴール正面から得点。

2P 津田学園のチームディフェンスに攻めあぐねる明大中野、ゴール前の選手を徹底マークされ決め手に欠く。ピリオド中盤にさしかかり、津田学園が猛攻を見せる。3分37秒、2分35秒と立て続けに泉がバワフルなセンターでの個人技で連続得点。1分58秒には、2次速攻でできたディフェンスの隙をつくワングッチのミドルシュートを今井が決め、4対0とした。

3P 何とか1点を返したい明大中野、4分8秒、森田がフロッタープレーで粘り退水を誘発、しかしせっかくのチャンスもシュートは枠の外へ、1点が遠い。3分33秒、津田学園泉のカットインで退水誘発、追加点のチャンスは今井がほとんど角度のないところから技ありのシュートでもものにす。津田学園はスターティングメンバーを下げるが得点を許さず、5対0で3ピリオド終了。

4P 早い時間に1点を返しておきたい明大中野、6分29秒、退水オフのチャンスに山上がトップシュートを決め、ようやく1点を返す。ここで津田学園はスターティングメンバーを戻し、試合の流れを取り戻そうとするが、明大中野の勢いは止まらず、怒濤の反撃。泳ぎの勢いが出てきた明大中野、退水を誘発していく。退水オフで、3分58秒山上、2分27秒道場が得点、2点差へと追いつける。1分09秒には相川がカウンター攻撃から、キーパーの脇下を抜く技ありシュートで得点し、1点差と試合は白熱する。さいごに試合を決めたのは、この試合もっとも目立っていた津田学園泉、相手ゴール前で粘り、フリースローシュートを決めた。

逃げ切った津田学園はベスト8入りを決めた。今井の巧みなシュートなどの個人技、泉のパワフルかつ技ありなプレーがとても光った。しかし、セービング以外で、仲間を鼓舞したり指示を出したりと、終始声を出し続けたゴールキーパー橋本の存在も大きい。明大中野も敗れはしたが、4ピリオドに見せた執念の攻撃力は圧巻であった。3年生はもちろん、2年生の道場のプレーにも目が留まった。

記録者

志水 啓介